

平戸北部地区

目指すべき姿

豊かな資源を活かした光輝く交流のまちづくり
～歴史・文化・自然の宝庫 平戸北部～

私たちの地区はこんなところ

■地区の紹介

平戸島の北部に位置し、本土の田平地区と平戸大橋でつながっている平戸北部地区は、「平戸オランダ商館」や「平戸城」など、多くの観光資源を有しています。

また、平戸瀬戸に浮かぶ国天然記念物の「黒子島原始林」や、西海国立公園内の有数の展望地である「川内峠」などの自然景観にも恵まれ、江戸時代初期までの対外貿易の中心地として栄えた歴史とともに国内外から多くの観光客を受け入れています。

※地図

■地区の宝

写真



田助ハイヤ節

写真



棲霞園

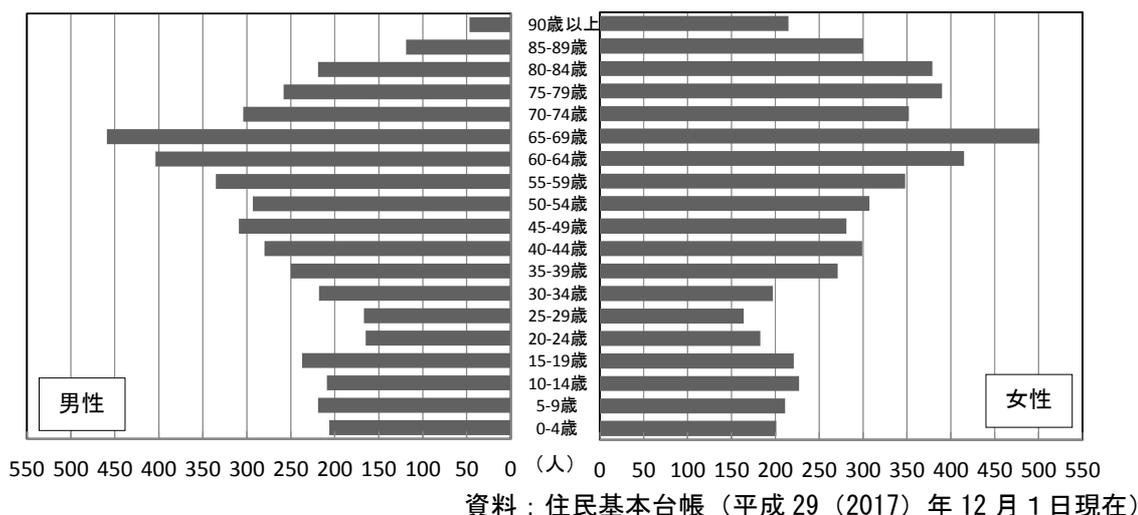
写真



鄭成功関連史跡

■地区の概要

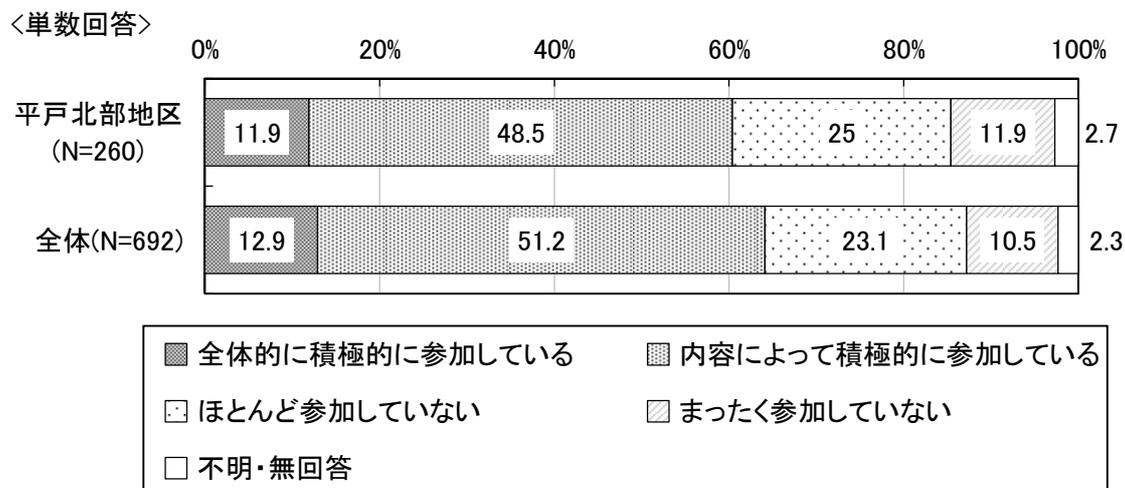
＜人口ピラミッド（平成 29（2017）年）＞



人 口	10,160 人（平成 29（2017）年 12 月 1 日現在） 0～14 歳：1,273 人 15～64 歳：5,344 人 65 歳以上：3,543 人
世帯数	4,708 世帯
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・市内 7 地区のなかでも、国・県・市指定の史跡・文化財などが最も多い地区です。 ・「コックスの甘藷畑跡」、「富春庵跡」、「オランダ船錨」など、海外文化との交流を物語る資産が多く残されています。 ・国指定重要無形民俗文化財である「平戸神楽」、「ジャンガラ」などの民俗芸能があります。

■地区のきずな

＜地域のコミュニティ活動に参加している人の割合＞



課題と取り組み

■地区に必要なこと

みんなで語り合った意見（ワールドカフェでの主な意見）

- ・観光地としての自覚。お客さんが来る観光地としての自覚を持ち、少しずつの心づかい、気配りが必要である。
- ・もてなしの心を持った人などを育てることが大事。
- ・観光客が来た際に、魅力がどこにあるのだろうか。リピーターが来ない。宿泊客がない。もてなす心、もてなす環境が整っていない。
- ・観光客が、体験を通して平戸の魅力を感じてもらおうプログラムを作る。
- ・世界遺産登録後の外国人観光客増加に対する受入れ態勢の整備。
- ・市民が、まずまちづくりを学んで、動くことが大切。（現状を知る。危機感を持つ。宝を知る。動く。）
- ・高齢化に対応できる家族層を対象としたホテルや食事を提供し、リピーターを増やす。
- ・自分の住んでいる所を観光客に案内できるだろうか。自分の住んでいる所を知らない人と人に説明できない。商店街を巻き込んだまちづくりが必要ではないか。
- ・観光に力を入れてもっとお客様を呼べるようにする。最近では、宿泊する観光客が少ないので、夕方から夜にかけての催しをして、宿泊者が増えるようにする。「平戸」をPRできるものにしないと無理かもしれない。世界遺産になったとしても、昼と夜と両方から見られるような工夫が必要かもしれない。
- ・平戸の良さに自信を持つこと。色々の良い点が見えてきて、前向きな発想ができる。

■地区を発展させる主な取り組み

具体的な施策

- ・旅まえ・旅なか・旅あとのおもてなし体制を充実する（P●施策1）
- ・ユニバーサルツーリズム観光を推進する（P●施策2）
- ・テーマ観光を推進する（P●施策1）
- ・外国人観光客受入環境整備を推進する（P●施策2）
- ・漁場環境の維持保全及び漁業生産の安定化を図る（P●施策1）
- ・良好な都市景観を形成する（P●施策1）
- ・平戸への愛着や誇りとなるものを発見する（P●施策1）

平戸中部地区

目指すべき姿

「歴史」「恵み」「祈り」のまちづくり

～平戸の魅力が凝縮された未来あふれるまち 平戸中部～

私たちの地区はこんなところ

■地区の紹介

平戸島の中央に位置する平戸中部地区は、「根獅子」、「人津久」に代表される海水浴場や、市内一帯や遠く五島列島の島々を望むことができる「鯛の鼻自然公園」など、雄大な自然を堪能することができる地域です。

また、歴史的価値を有する資源が多く、多くの教会や寺院をはじめ、世界遺産候補の構成資産である「平戸の聖地と集落（春日集落と安満岳）」があり、観光客が多く訪れるスポットが所在しています。

※地図

■地区の宝

写真

写真

写真

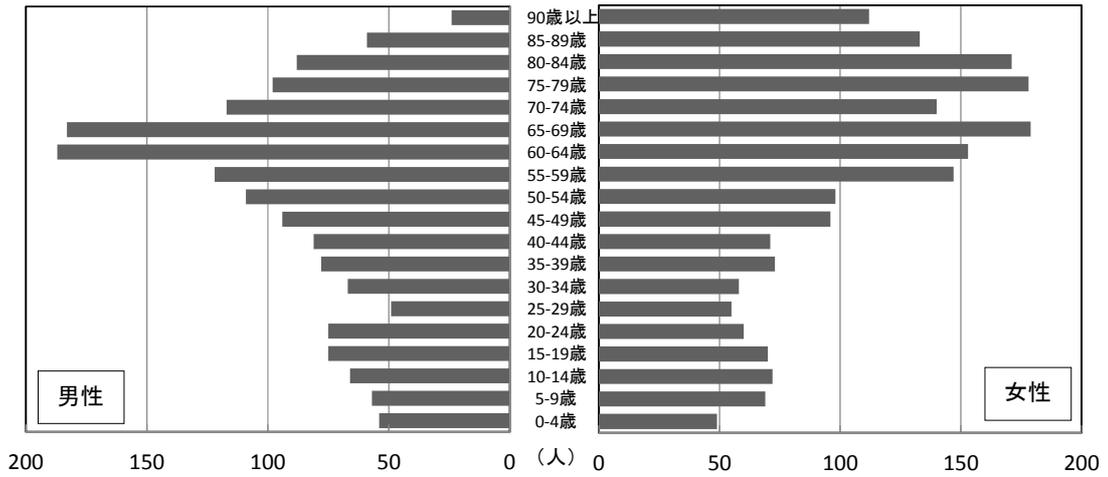
獅子の須古踊り

普門寺

慈眼桜

■地区の概要

<人口ピラミッド（平成 29（2017）年）>

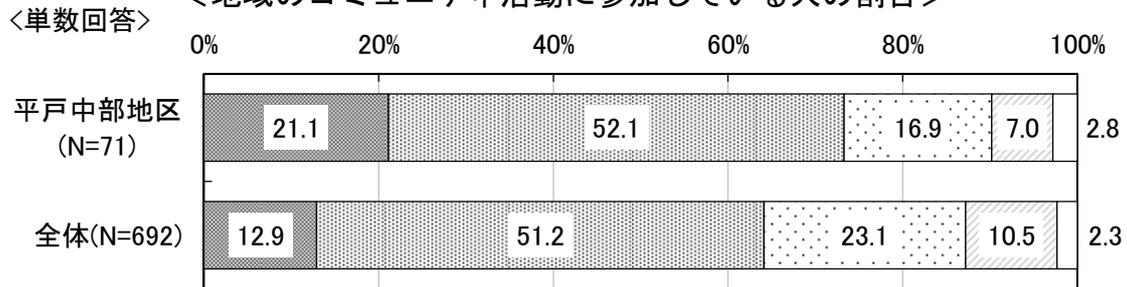


資料：住民基本台帳（平成 29（2017）年 12 月 1 日現在）

人口	3,667 人（平成 29（2017）年 12 月 1 日現在） 0～14 歳：367 人 15～64 歳：1,818 人 65 歳以上：1,482 人
世帯数	1,590 世帯
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・農業では、繁殖牛の多頭飼育農家が育成されており、平戸市の畜産を牽引するほか、いちごやアスパラガスなどの施設園芸品目、菌床しいたけの生産が行われています。 ・漁業では、カキやヒオウギ貝などの貝類養殖や、定置網などの沿岸漁業が盛んに行われています。 ・宝亀地区、紐差地区、獅子地区で行われている「ジャンガラ」や、「ウシワキの森」などの歴史ある資源が数多くあります。

■地区のきずな

<地域のコミュニティ活動に参加している人の割合>



■ 全体的に積極的に参加している	▨ 内容によって積極的に参加している
▤ ほとんど参加していない	▧ まったく参加していない
□ 不明・無回答	

資料：第 2 次平戸市総合計画策定のための市民アンケート調査

課題と取り組み

■地区に必要なこと

みんなで語り合った意見（ワールドカフェでの主な意見）

- ・来訪者、観光客が美しい自然風景をバックに記念写真を撮るスポットを整備し、インターネットなどを利用し広報する。
- ・中部地区の郷土歴史のマップを作り、宣伝する。
- ・中部地区には山も海もあり、自然豊かな環境にあるので、その環境整備をする必要があるのではないか。
- ・第一次産業の振興。農漁業の発展により後継者も生まれ、人口減少にも役立ち経済力も増すと思われる。地域活性化も可能。
- ・農林業を新しい視点から見直す事により、新しい産業が生まれる。
- ・若い世代の雇用確保が、地域の活性化につながる。
- ・隣近所でも挨拶が少なくなった。コミュニケーションが欠如しているように思える。助け合い互助が少なくなった。
- ・高齢者の生きがい対策。気軽に集える場所づくり。
- ・公会堂、ふれあいセンターをオープン化。子供、大人、全ての住人が好きな時に好きなことをして過ごせる場所を提供する。
- ・定期的に比較的元気な高齢者が集い、草取り作業などを行う。それを見る子供、青壮年の人達が、高齢者に対する感謝の気持ちを持ち、「いつも町をきれいにしてくれてありがとうございます」と感謝の気持ちを伝える。老人の生きがいにもつながると考える。

■地区を発展させる主な取組み

具体的な施策

- ・テーマ観光を推進する（P●施策1）
- ・効果的なシティプロモーションを展開する（P●施策2）
- ・意欲ある担い手を確保・育成する（P●施策1）
- ・もうかる農業を実現する（P●施策2）
- ・全員参加型の地域共生社会を実現する（P●施策1）
- ・高齢者の生きがい対策と社会参加を促進する。（P●施策2）
- ・文化遺産の保存と継承を推進する（P●施策2）

平戸南部地区

目指すべき姿

奥平戸から新たな風をつくり出すまちづくり
～豊かな自然や恵みと共にひとが輝く 平戸南部～

私たちの地区はこんなところ

■地区の紹介

平戸島の南部に位置する平戸南部地区は、「ウチワエビ」や「ヒラメ」、「イカ」に代表される水産物は県内有数の漁獲を誇り、また「米」や「アスパラガス」、「しいたけ」など農産物の生産も盛んに行われている農林漁業が盛んな地域です。

また、国天然記念物である「礫岩」、九州百名山に選ばれた「志々伎山」をはじめ、「屏風岳」、「佐志岳」は独特の自然景観を織り成すとともに固有の希少植物が生育しています。

※地図

■地区の宝

写真

写真

写真

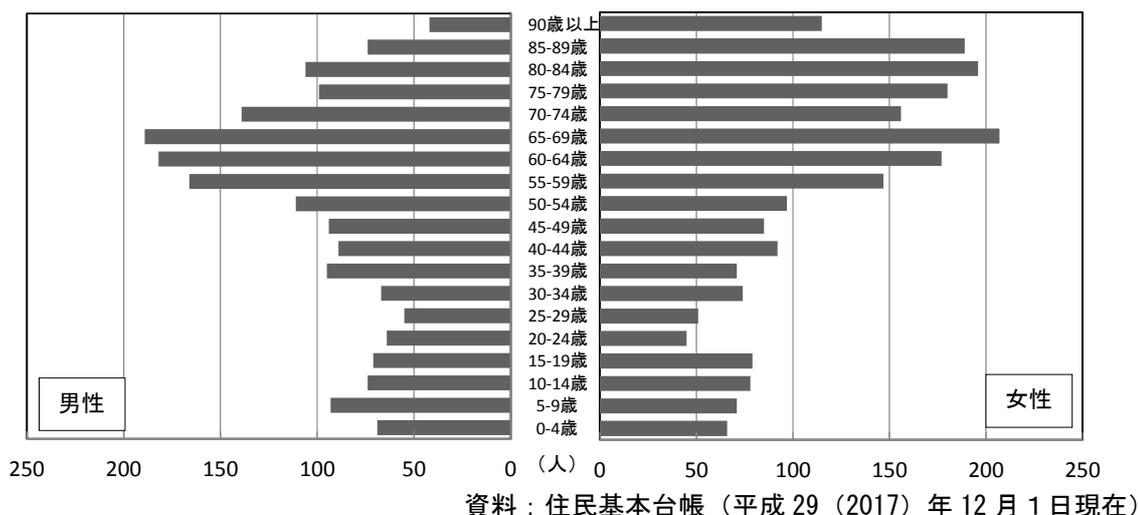
阿弥陀寺の十一面観世音
菩薩座像

阿値賀島

津吉茶市

■地区の概要

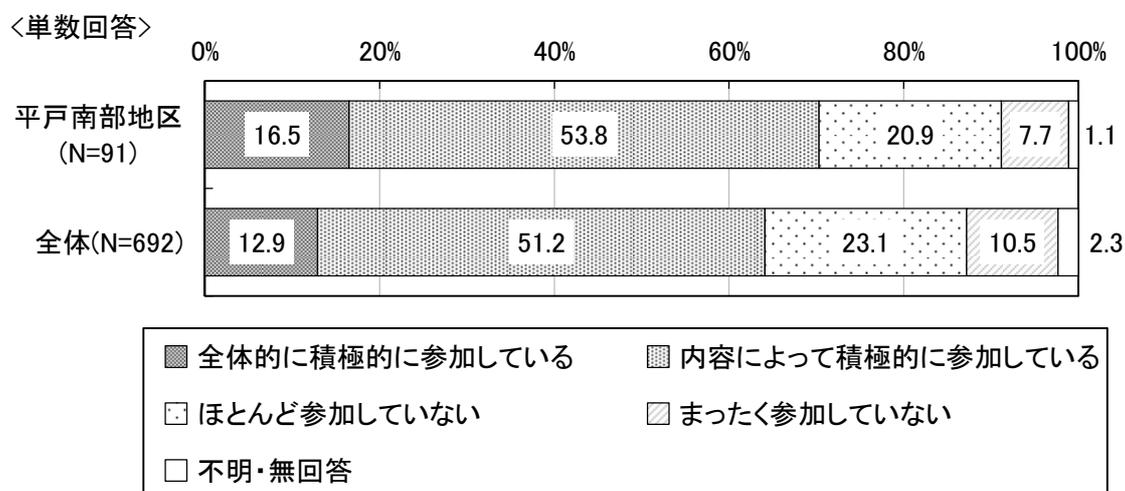
<人口ピラミッド（平成 29（2017）年）>



人 口	4,055 人（平成 29（2017）年 12 月 1 日現在） 0～14 歳：451 人 15～64 歳：1,912 人 65 歳以上：1,692 人
世帯数	1,651 世帯
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・国の重要無形民俗文化財のジャンガラは、野子、志々伎、津吉、中津良地区で受け継がれており、それぞれに特徴ある踊り方や飾り付けとなっています。 ・海に面する地域が多くあるため、釣りスポットが点在しており、地域住民はもとより、県外からも多くの方が訪れています。 ・志々伎漁協お魚まつりや福田酒造酒蔵開き、また、津吉茶市や中津良ほたるまつりなど多彩なイベントが数多く行われています。

■地区のきずな

<地域のコミュニティ活動に参加している人の割合>



課題と取り組み

■地区に必要なこと

みんなで語り合った意見（ワールドカフェでの主な意見）

- ・地区の行事には町民こぞって参加をし、活性化をめざして頑張っていきたい。
- ・皆様の協力が必要。何をするにも、協力がなければならない。
- ・住民が何か一つでも他人の為に動く事が大事だと思う。
- ・南部地区の特産品を作って販売したい。
- ・美味しい食事が出来る場所があれば、観光客も増えるのではないかと思う。せっかくの美味しい南部地区の食材を活かしてほしい。
- ・イベントなどで、地元に来てもらって良さを再発見してもらおう。
- ・外からの観光客を呼ぶために交通の便を良くしたり、安く利用できるようにして欲しい。
- ・観光に来てくれる人のための、美味しい南部地区の特産を使う店などを作った方が良い。働く場所も出来る工夫も必要だと思う。平戸の郷土料理をさがす。農産物や海産物などを使った料理で観光客をひきつけるように出来たら良いと思う。
- ・若い人の仕事。平戸の生産物のブランド化。
- ・若い人が残れる為の働く場が必要。
- ・穴場的観光スポットの発掘・開発。

■地区を発展させる主な取り組み

具体的な施策

- ・平戸の愛着や誇りとなるものを発見する（P●施策1）
- ・協働意識の啓発・向上を推進する（P●施策1）
- ・平戸産品の販路拡大と新商品開発を支援する（P●施策2）
- ・もうかる農業を実現する（P●施策2）
- ・テーマ観光を推進する（P●施策1）
- ・市内在住者の定着推進を図る（P●施策2）
- ・漁場環境の維持保全及び漁業生産の安定化を図る（P●施策1）

生月地区

目指すべき姿

未来へつなごう！人情味あふれるまちづくり

～つんので やろかい ワクワク 生月～

私たちの地区はこんなところ

■地区の紹介

平戸島の北西部に位置し、平戸島と生月大橋でつながっている生月地区は、断崖の上にある「大バエ灯台」からの眺望、亀甲模様の石柱群で構成された「塩俵の断崖」、水平線を眺めながらドライブできる「サンセットウェイ」などの絶景や、ガスパル様をはじめとするキリシタン史跡がたくさん残っており、多くの観光客が訪れています。

また、江戸時代は捕鯨基地として栄え、現在は大中型まき網漁や定置網漁業などの沿岸漁業のほか、建設業、畜産、水稻などが盛んな地域となっています。

※地図

■地区の宝

写真

館浦須古踊り

写真

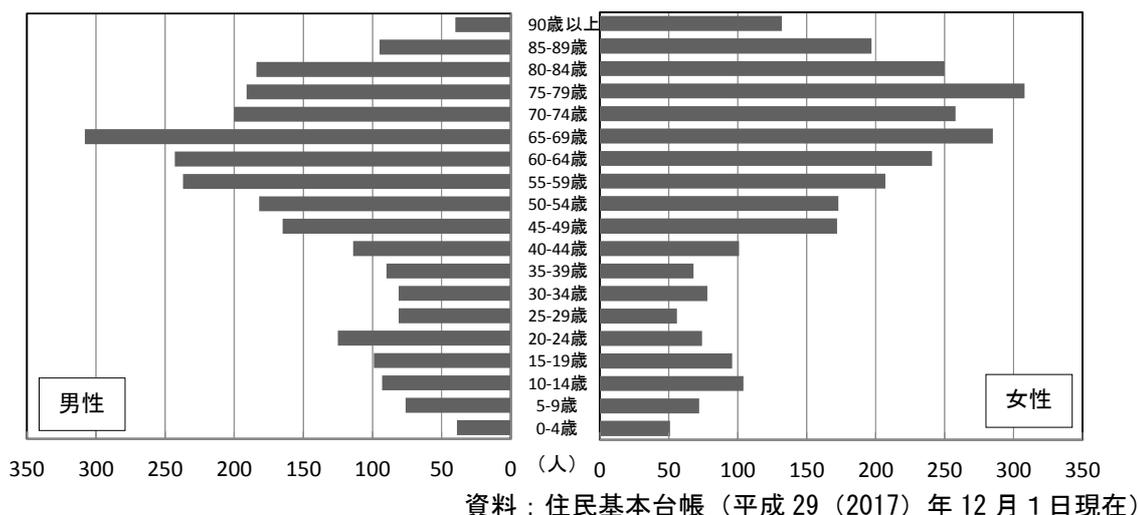
生月勇魚捕唄

写真

塩俵の断崖

■地区の概要

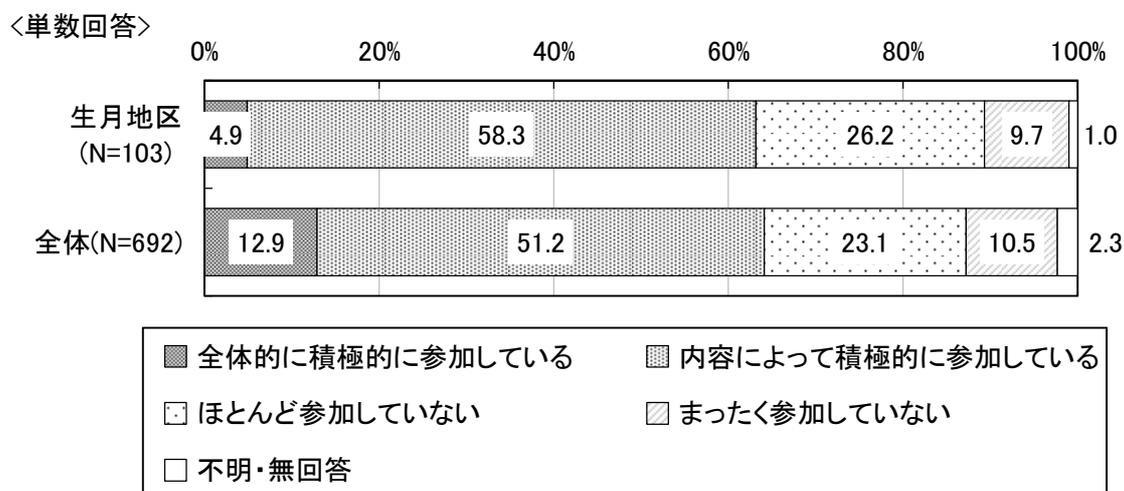
＜人口ピラミッド（平成 29（2017）年）＞



人 口	5,566 人（平成 29（2017）年 12 月 1 日現在） 0～14 歳：435 人 15～64 歳：2,683 人 65 歳以上：2,448 人
世帯数	2,412 世帯
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・かくれキリシタン習俗や益富家による捕鯨などの独自の文化財を有し、館浦須古踊りや勇魚捕唄などの民俗芸能、カワ祭り、奉納相撲をはじめとする行事が盛んです。 ・アゴ（飛魚）やシイラ、アワビ、サザエなどの魚介類、かまぼこなどが特産品となっています。また、鯨料理も有名です。 ・いきつきロードレースや平戸ツデーウォークの開催、地域及び青少年のスポーツ活動など、スポーツ・レクリエーション活動が活発に行われています。

■地区のきずな

＜地域のコミュニティ活動に参加している人の割合＞



資料：第 2 次平戸市総合計画策定のための市民アンケート調査

課題と取り組み

■地区に必要なこと

みんなで語り合った意見（ワールドカフェでの主な意見）

- ・地元民が地元の良さ、素晴らしさを学ぶ機会を得ること。
- ・方言等、地元ならではのアイテムを使ってのPR。
- ・観光地としての意識づくりが必要。
- ・田舎振興は食にあり。郷土食を知ってもらう。
- ・Uターンして来た人の働く場所を確保する。
- ・生月の基幹産業であった漁業の活性化。後継者の育成。
- ・若者の働く場の確保（意見を聴き、居場所をつくる）。
- ・働く場所の確保。働く場所がないと人も定住しない。
- ・地域の誇りを取り戻そう。
- ・若者の地域への思いが弱いと思われる。地域行事への参加を願う。
- ・平戸・田平・生月・大島と単体ではなく、地域間交流を活発的に行うことで平戸市全体を盛り上げて行くことが必要。
- ・若い世代、子育て世代から出てくるアイデアややりたい事の実現に向けて協力してくれる機関の設置。また、各団体のはしご役の機関が必要。
- ・まちづくり協議会の運営を若者、壮年、老人一緒になって計画する。

■地区を発展させる主な取り組み

具体的な施策

- ・選ばれるためのシティプロモーションを展開する（P●施策2）
- ・テーマ観光を推進する（P●施策1）
- ・漁場環境の維持保全及び漁業生産の安定化を図る（P●施策1）
- ・漁業後継者対策及び漁協経営の安定化を図る（P●施策3）
- ・市内在住者の定着推進を図る（P●施策2）
- ・協働意識の啓発・向上を推進する（P●施1）
- ・地域を担う団体を育成支援する（P●施1）

田平地区

目指すべき姿

活かせ！！海・山・歴史。いっちょやるばい田平おこし
～住み続けたいふるさと 田平～

私たちの地区はこんなところ

■地区の紹介

田平地区は平戸市東部、九州本土の西北端に位置し、東は松浦市、南は佐世保市に隣接しています。日本最西端の駅や道の駅「昆虫の里たびら」があり、平戸市の玄関口となっています。

また、国指定重要文化財「田平天主堂」や市指定無形文化財「荻田浮立」の文化財や伝統芸能を有し、自然観察型のたびら昆虫自然園や平戸大橋、平戸瀬戸の絶景を望む田平公園など、自然を活かした観光資源にも恵まれています。

※地図

■地区の宝

写真

写真

写真

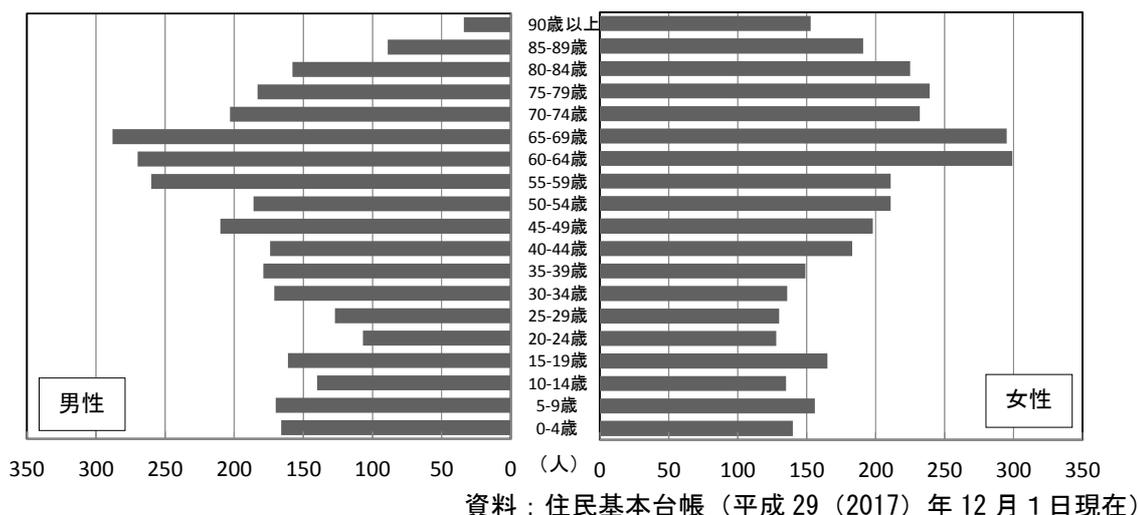
荻田浮立

中瀬草原

道の駅「昆虫の里たびら」

■地区の概要

＜人口ピラミッド（平成 29（2017）年）＞

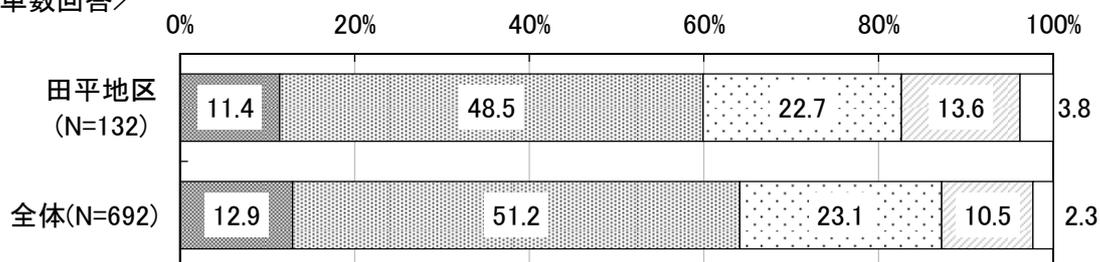


人 口	6,852 人（平成 29（2017）年 12 月 1 日現在） 0～14 歳：907 人 15～64 歳：3,655 人 65 歳以上：2,290 人
世帯数	3,015 世帯
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・日本最西端の駅「たびら平戸口駅」をがあり、陸路・海路・鉄路が交わる平戸市内を結ぶ交通の要衝地です。 ・基幹産業は農業であり、久吹ダム建設による灌漑施設や農道の整備などにより、畑作や施設園芸、肉用牛の生産など盛んに行われています。また、平戸魚市場、家畜市場、県漁連、瀬戸市場があり、農水産物の流通施設の集積地でもあります。 ・「権現太鼓」や「がわっぱ祭り」などの地域行事や「たびら夏まつり花火大会」「田平つばき物産展」などのイベントも盛んに行われています。

■地区のきずな

＜地域のコミュニティ活動に参加している人の割合＞

＜単数回答＞



■ 全体的に積極的に参加している	■ 内容によって積極的に参加している
□ ほとんど参加していない	□ まったく参加していない
□ 不明・無回答	

資料：第 2 次平戸市総合計画策定のための市民アンケート調査

課題と取り組み

■地区に必要なこと

みんなで語り合った意見（ワールドカフェでの主な意見）

- ・自慢できるものを見つけよう。「田平は何もなかつちゃんね」は言うてはいけない。おいしい店、景色のいい場所、自信をもって紹介できるものを見つけよう。
- ・どんな組織でもリーダーは存在する。しかし、まちづくりとなると、単なるまちづくりでなく感動と感謝のまちづくり、持続可能なまちづくりを住民に与える真心と情熱を持ったリーダーが必要。
- ・地域、職場内のコミュニケーション拡大。独居老人の増加による地域内の助け合い。
- ・みんなで協力し、元気なまちづくり。
- ・子どもはなんと言っても未来の田平の宝。ふるさと田平を、愛着心を持った子どもを育てる。これこそが田平の持続可能性を高める。
- ・子どもが生き生きしている町は将来像が見えるのではないか。子どものためのイベントや事業を増やす。
- ・働く場所が必要。
- ・若者の仕事の確保、高齢者の仕事が必要。
- ・終の住みかを目指し若者の働く場を確保する。企業ができる応援体制を確立する。労働人口の増加を目指す。
- ・耕作放棄地の解消、一坪オーナー制度、特産品の開発と販売ルートの開拓ブランド化を目指す。

■地区を発展させる主な取組み

具体的な施策

- ・文化遺産の保存と継承を推進する（P●施策2）
- ・市民文化活動を支援する（P●施策1）
- ・青少年の健全育成（P●施策6）
- ・意欲のある担い手を確保・育成する（P●施策1）
- ・人材確保・人材育成を支援する（P●施策2）
- ・協働意識の啓発・向上を推進する（P●施策1）
- ・もうかる農業を実現する（P●施策2）

大島地区

目指すべき姿

島に希望を見い出すまちづくり

～未来への風が吹く宝島 的大山島～

私たちの地区はこんなところ

■地区の紹介

平戸島の北約 10km に位置し、北西は玄界灘に面して壱岐・対馬を望み、南は度島水道を隔てて平戸島・九州本土と相対し、南西には生月島が横たわっています。

北部に大根坂湾、西部に的大山湾を抱き、山脈は島の中央を東西南北に走っており、起伏が激しくほとんど丘陵地で平坦地が少ない島です。海岸線の延長は約 38 km で、島の最東端には、50m～70m の切り立った崖を望むことができる「大賀断崖」や「大根坂の棚田」など、豊かな自然に恵まれています。

※地図

■地区の宝

写真

大島の須古踊り

写真

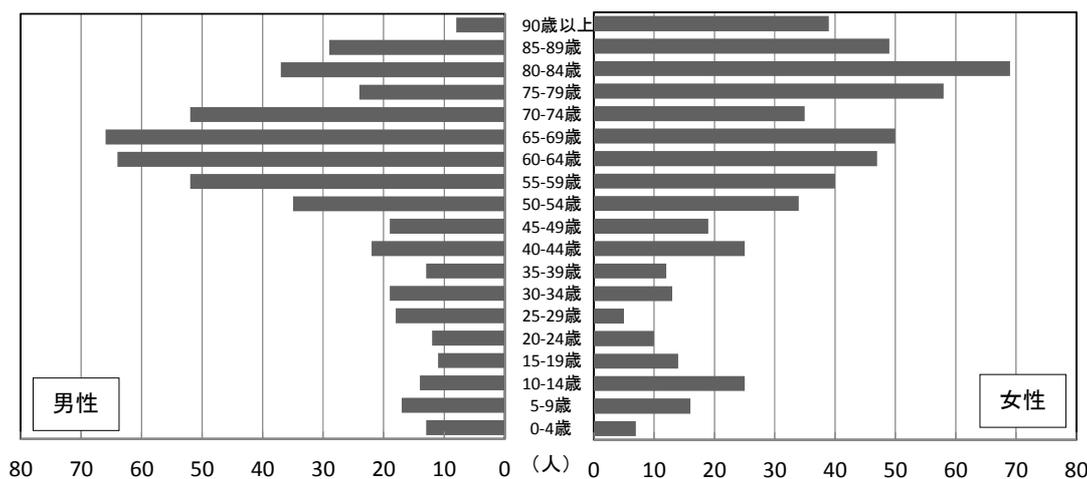
大根坂の棚田

写真

大島地区風力発電

■地区の概要

＜人口ピラミッド（平成 29（2017）年）＞

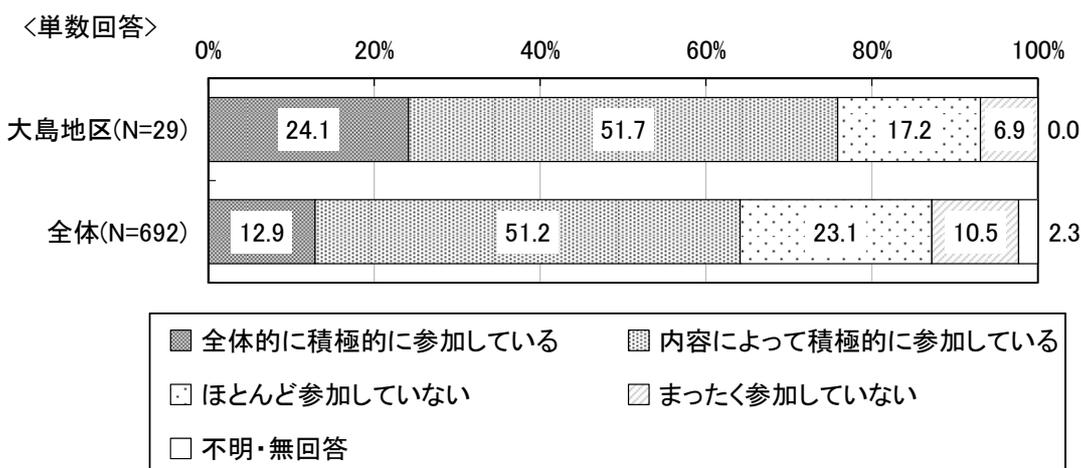


資料：住民基本台帳（平成 29（2017）年 12 月 1 日現在）

人 口	1,092 人（平成 29（2017）年 12 月 1 日現在） 0～14 歳：92 人 15～64 歳：484 人 65 歳以上：516 人
世帯数	519 世帯
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・産業構造は農漁業を主とした第 1 次産業が中心で、農業においては、葉たばこ、畜産（繁殖牛）、種ばれいしょ、水稻などを組み合わせた複合経営であり、漁業においては、定置網漁やイカ釣り・一本釣りなどの沿岸漁業が主となっています。 ・島外からの交通手段としては、平戸中心部の平戸湾と大島を結ぶフェリーが定期的（1 日 5 便）に運行されています。

■地区のきずな

＜地域のコミュニティ活動に参加している人の割合＞



資料：第 2 次平戸市総合計画策定のための市民アンケート調査

課題と取り組み

■地区に必要なこと

みんなで語り合った意見（ワールドカフェでの主な意見）

- ・大島で島ならではの賄い。
- ・猪のレシピ開発。
- ・高齢者が多い大島地区において、交通手段がない高齢者が多くいる。
- ・一人暮らしの老人宅に「一人ですよ」とシールなど貼ると、防犯上良くない。しかし、一人で買い物にも行けない、家から出られないという状況が多くなっていく。どんなアプローチをするか、皆で考えて行かなくてはならない。
- ・島外にいる人が戻ってきやすいように働く場所が必要だと思う。
- ・若い人達でも島に帰って来たい人もいるが、働く場所がない。
- ・大島の三大産業である農、漁業や観光業など新しい発想でできないか。耕作放棄地を使ったクリーンエネルギーづくり。レンゲ、ひまわり畑。育てる漁業。クルージング。
- ・若い人が住みやすい島にしていく事が大事。仕事や楽しみが自由にできる事が必要。
- ・人と人とのコミュニケーション作り、交流が必要。
- ・人口減少のストップ。若者移住生活支援が必要。この高齢化社会のなかで、大島を引っ張っていくのは結局若者の力だと思う。若者の増加の為に必要なことをこれから考えていくべきだと思います。

■地区を発展させる主な取り組み

具体的な施策

- ・平戸産品の販路拡大と新商品開発を支援する（P●施策2）
- ・意欲のある担い手を確保・育成する（P●施策1）
- ・漁業後継者対策及び漁協経営の安定化を図る（P●施策3）
- ・移住者の受け入れ態勢の強化を図る（P●施策1）
- ・テーマ観光を推進する（P●施策1）
- ・全員参加型の地域共生社会を実現する（P●施策1）
- ・青少年の健全育成（P●施策6）

度島地区

目指すべき姿

「行こう！憩こう！度島」のまちづくり
～自然・人情豊かな 伝統の郷（さと） 度島～

私たちの地区はこんなところ

■地区の紹介

平戸島最北端から 2.3 km に位置し、東西に約 3.5 km、南北に約 1 km の横長の島です。

全体的に見ると標高約 70～80m の台地状の島であり、最高点は、人工的に陸と結ばれた丸島の飯盛山で標高 103m です。海岸線の延長は約 12km で、北西海岸は外海に面しており、約 20～30m の海食崖が連続しています。

一方、南側は比較的平坦で東部では草地在が広がっています。河川は、地藏川と湯牟田川があり、ともに南岸へ流れています。

※地図

■地区の宝

写真

盆ごうれい

写真

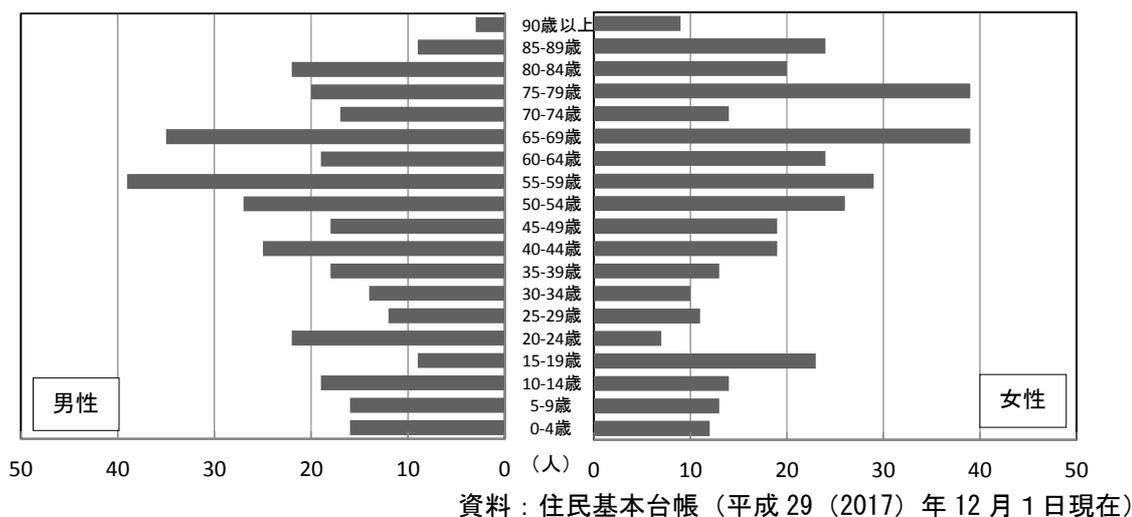
丸島

写真

崎瀬ノ鼻

■地区の概要

＜人口ピラミッド（平成 29（2017）年）＞

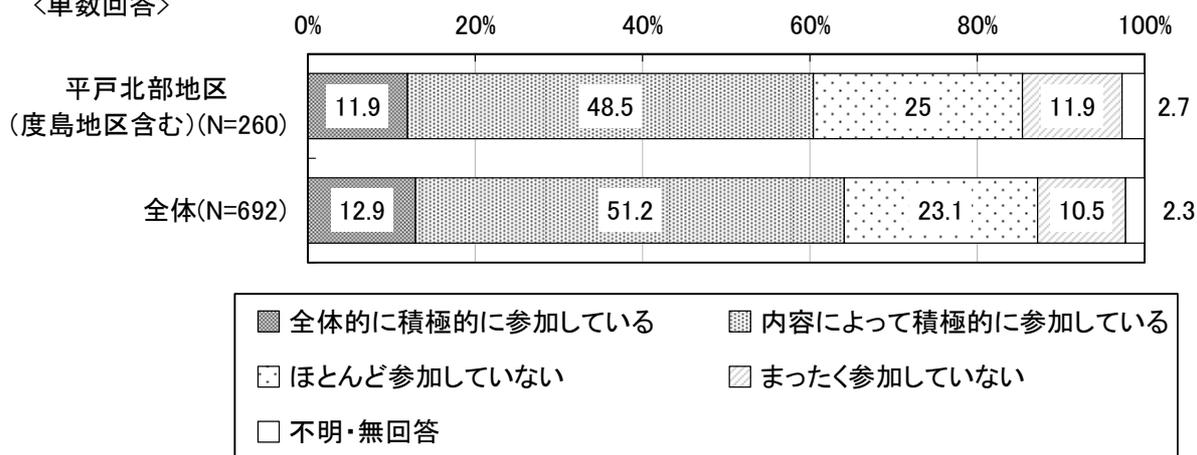


人 口	725 人（平成 29（2017）年 12 月 1 日現在） 0～14 歳：90 人 15～64 歳：384 人 65 歳以上：251 人
世帯数	241 世帯
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・主産業は漁業と農業です。 ・島外からの交通手段としては、平戸市中心部の平戸港と度島を結ぶフェリーが定期的に運航されています。 ・崎瀬古墳など原始・古代の遺跡があります。

■地区のきずな

＜地域のコミュニティ活動に参加している人の割合＞

＜単数回答＞



課題と取り組み

■地区に必要なこと

みんなで語り合った意見（ワールドカフェでの主な意見）

- ・ 行政サービスが他の地区に比較して大幅に少ない。設備もない。
- ・ ふれ愛センターの充実が必要。
- ・ 若い人の協力。これからのまちづくりには必須なことである。
- ・ 島民の意識の改革。全員参加のまちづくり。
- ・ 少しでも収入が出来るよう、食事を行える食堂やカフェがあれば…。島全体を使って、スタンプラリーなどをして各箇所巡る（レンタルサイクルを利用して）など、人を呼べるような工夫する。
- ・ 人、金、箱。まずは人、次に、雇用、次に場所がある。
- ・ 人口を増やすため、出会いの場が必要。
- ・ 働く環境作り。人口減少を防ぐには安定した仕事場がほしい。
- ・ 農業会社の設立。良い作物を開発して、四季を通して安定した収入を得られるような事業を興す。
- ・ 仕事を作り、人を増やす。

■地区を発展させる主な取り組み

具体的な施策

- ・ 地域を担う団体を育成支援する（P●施策1）
- ・ 地域ぐるみの子育て支援を推進する（P●施策1）
- ・ 全員参加型の地域共生社会を実現する（P●施策1）
- ・ 地域の魅力を知り輝かせる（P●施策1）
- ・ もうかる農業を実現する（P●施策2）
- ・ 戦略的な流通・販売体制を構築する（P●施策2）
- ・ 高齢者の生きがい対策と社会参加を促進する（P●施策2）